

ぼくとおばさんのあさがお

鹿児島市立田上小学校 一年 ひがし じょうじ

「このおはなのたね、おばちゃんにあげるね。」

となりのおばさんのおうちに、あさがおのたねをとけにいきました。いつもおせわになっているから、がっこうでもらったあさがおのたねを、おすそわけにいきました。おばさんは、

「あら、ありがとう。じょうじくんはうえたのかな。」
とききました。

「うん。がっこうでもうえたし、おうちのプランターにもうえただよ。おばちゃんもよかったらうえてね。」

と、ぼくがいうと、

「そうね。じゃあ、おばちゃんもうえてみようかね。どっちがはやくさくか、きょうそうだよ。」

といいました。ぼくはうれしくなつて、おかあさんのまっているおうちまではしつてかえりました。

「おかあさん、おばちゃん、もらってくれたよ。きょうそうだって。」
と、ぼくが二かいのおかあさんにおきなこえでいうと、

「お、じゃあ、じょうじもいっしょうけんめいおせわをしないとね。」
というこえがきこえてきました。ぼくは、

「ようし、がんばるぞ。」

とおもいました。
がっこうのあさがおのめがでて、はっぱがおおきくなっていききました。

おうちやおばさんいえのあさがおもどんどんおおきくなりました。ぼくは、ときどき、おばさんのいえの

あさがおにもおみずをあげにいきました。

「じょうじくん、ありがとう。あさがおさんもおいしいっていいね。」

と、おばさんはわらいました。ぼくは、あさがおのはっぱにおみずが、きらきらひかっているのをみて、

「ありがとう。」
っていつているみたいだな、とおもいました。

六がつになってつるがのびて、さきのほうにつぼみみたなものがつきました。ぼくのあさがおも、もうすぐさきそうになっていたとき、おばさんのげんきのよいこえがきこえてきました。

「じょうじくん、さいたよ。じょうじくんのあさがお。」

おばさんのうれしそうなこえでした。ぼくが、おばさんのおうちにいくと、まんなかむらさきで、まわりがしろのきれいなあさがおがさいていました。

「とってもきれいだね。おばちゃんのおはながさきにさいたね。」

と、ぼくがくやしそうにいうと、

「そうだね。きれいだね。このおはなは、じょうじくんのあさがおだよ。おばちゃんは、おせわのおつたいをしたただだよ。さいてよかったね。じょうじくんのおうちのあさがおもたのしみだね。」

と、にこっとわらっていいました。ぼくは、なんだかうれしくなりました。おばさんとのあさがおを、ちゃんとおせわするぞ、とおもいました。いま、ぼくのおうちには、あさがおが、たくさんさいています。ぼくとおばさんのあさがおです。

〔審査評〕

「あさがお」を通した、じょうじくんとなりのおばさんの心と親切の交流が良く書けています。競争しているおばさんのあさがおにも、水をあげたじょうじくんの親切、また、「このおはなは、じょうじくんのあさがおだよ。」と、言われたおばさんの思いやりを心をとれしました。

このあさがおの花を見ると、心がやさしくなるでしょうね。